

※シリーズ〇巻^{かん}…1巻^{かん}からじゅんばんに読むことをおすすめします。

※シリーズ〇冊^{さつ}…どこからよんでも楽しめます。

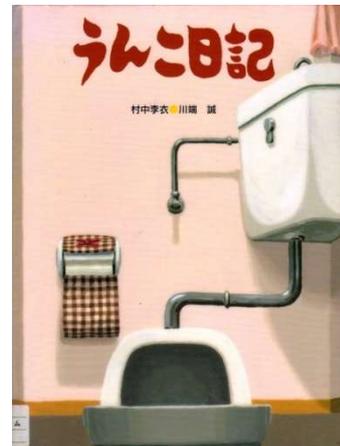
日本の絵本

うんこ日記

村中 季衣^{むらなか しよま}／文 川端 誠^{かわばた まこと}／絵

BL出版

お父さんが^{たび}旅に出ている間の一週間。ぼくがどうすごしたかをお父さんに伝えたくて、かんがえたのが「うんこ日記」。お父さん、よろこんでくれるかな？ びっくりしてくれるかな？ さてさて、いったいどんな日記ができたのでしょうか？



えんぴつはかせ

山岡 ひかる^{やまおか ひかる}／文・絵

偕成社

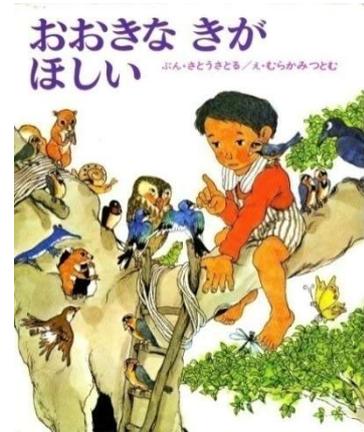
ぼくは天才かも！ 気がつけばノートに答えがかいてある。だけど、じつは答えをかいてくれるのは…えんぴつ。こんなえんぴつほしって、みんなも思うにちがいありません。主人公のぼくとえんぴつのふしぎな^{ゆうじょう}友情のお話です。



おおきな きが ほしい

佐藤 さとる／文 村上 勉／絵
偕成社

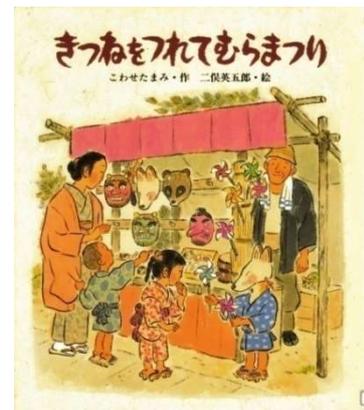
「大きな大きな木がほしいなあ。」かおるの
考えている大きな木は、はしごをかけての
ぼっていくと台所だいどころがあってホットケーキがや
けます。もっとのぼっていくと高い見晴らし
台があって、リスやカケスやたくさんのヤマ
ガラが遊びに来ます。大きな木の絵がペー
ジいっぱいひろがります。



キツネをつれてむらまつり

こわせ たまみ／文 二俣 英五郎／絵
教育画劇

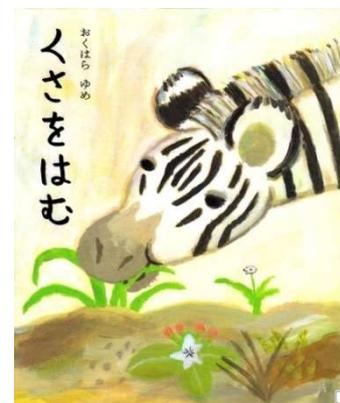
むらまつりの日、おもちゃ屋のごんじいの前
にあらわれた男の子。体や手足は人間の
子どもなのに顔だけはキツネのまま。ごん
じいはだまされたふりをして、キツネのおめ
んをかぶせてむらまつりに。キツネの子は
まつりを楽しみますが…。ごんじいのやさし
さがつたわるお話です。



くさをはむ

おくはら ゆめ／文・絵
講談社

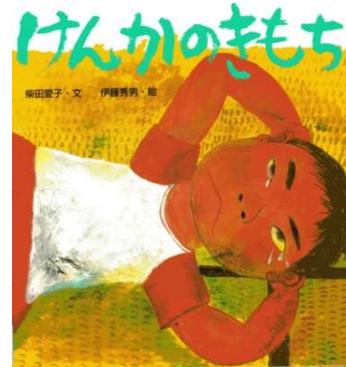
「くさをはむ くさをはむ すなあびる かお
よせる… ぼくらのいちにち こんなかん
じ。」(本文より)ゆったりと草を食べながら
すごす、しまうたち。のんびりゆったり、し
まうまのように、すごしてみたくになります。



けんかのきもち

柴田 愛子／文 伊藤 秀男／絵
ポプラ社

けんのいちばんの友だちは、こうた。ある日、けんとかうたは、すごいけんかをした。けんは、負けてなきながら家に帰った。お母さんにくっついて、もつともつとないた。でもなきたい気持ちはおさまらない。みんなもこんなことあったかな。



さくら

長谷川 摂子／文 矢間 芳子／絵
福音館書店

わたしは「ソメイヨシノ」というさくらの木。春にはうつくしい花をさかせ、やがて、葉っぱだけになったかと思うと、葉かげに小さなサクランボ。夏には虫で大にぎわい…。日本人になじみぶかい木、さくらが自分の一年を語ります。



じごくのラーメンや

刈田 澄子／文 西村 繁男／絵
教育画劇

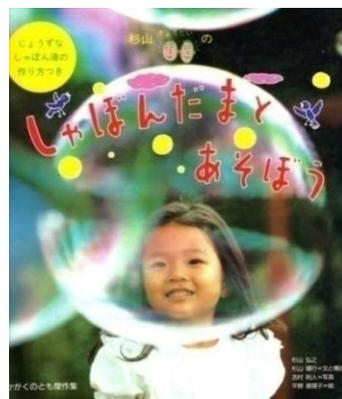
おいしいものいっぱい天国にあこがれるじごくの人間たち。まけてたまるかと、じごくのえんまさまがつくったのは、じごくのラーメンや。めいぶつは、からいからい血の池ラーメン。おいしそうなおいにつられて、店は毎日大ぎょうれつ。スカツとたのしい絵本です。



杉山きょうだいのしゃぼんだまとあそぼう (かがくのとも傑作集)

すぎやま ひろゆき・すぎやま てるゆき／文と構成
福音館書店

しゃぼん玉をとばそう。われにくくするためにはどうしたらいい？ しゃぼん玉にいろいろ工夫をして、大きな大きなしゃぼん玉をとばしてみよう！ とばす道具も、なんでもつかって楽しく遊ぼう！ しゃぼん玉で楽しく遊ぶための、いろんなアイデアがいっぱいの絵本です。



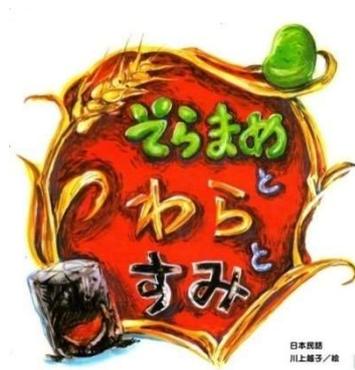
そらまめとわらとすみ

にほんみんわ

かわかみ 越子／絵

鈴木出版

みんなは、そらまめって知っていますか？ そらまめになぜ黒いすじがあるのか知っている？ むかしから、かたりつがれてきた日本民話です。本当かウソかより、お話の楽しさをあじわってくださいね。



だって春だもん

こでら たくや／写真・文

アリス館

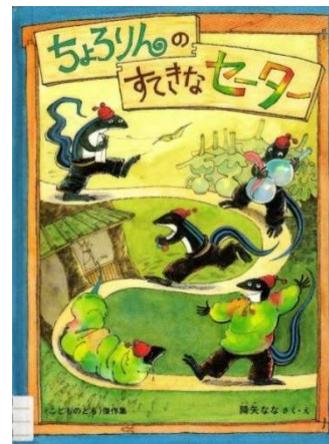
表紙の写真がとってもステキ。思わず手にとってしまいます。しずかに、とてもしずかに生き物たちの息づかいが聞こえてくるようです。みんな生きてるんだな、春をまっているんだなと。春をさがしにでかけたくなるような写真絵本です。



ちよろりんのすてきなセーター (こどものとも傑作集)

降矢 なな／作・絵
福音館書店

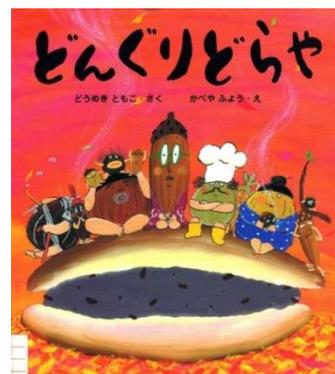
ちよろりんは、さむがりやのとかげの子。ようひんでんでみつけた、すてきなセーターを買うために、おじいちゃんのごとのお手伝いをがんばります。やっと手に入れたおかねをもってお店へいくと…。こころがほんのりあたたかくなるお話です。



どんぐりどらや

どうめき ともこ／文 かべや ふよう／絵
佼成出版社

黄色い森のさんぽみち。アキオは、落ち葉をかぶったおじぞうさまの葉っぱをはらい落とし、石の頭をくりくりなでた。そうすると何かよい事があると、おばあちゃんから聞いていた。小さな広場から声がし、どんぐりたちがどらやきを作っているのを見て…。



ないた

甲川 ひろたか／文 長 新太／絵
金の星社

ぼくは一日一回はないている。お母さんは、ほうちょうで指を切ってもなかない。でもお母さんの目から、なみだがこぼれるのを見たことがある。ぼくもおとなになったら、なかなくなるんだろうか。「なきむしでもだいじょうぶ」って思える絵本です。



なのか
7日だけのローリー

かたやま けん / 文・絵
学習研究社

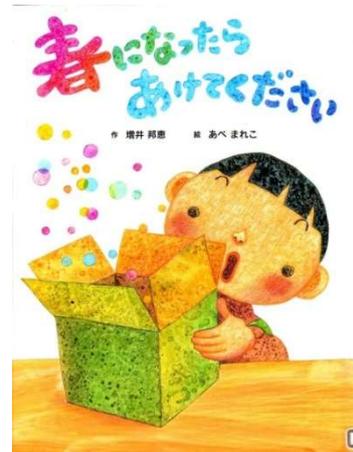
迷い犬を飼うことになったぼく。うちだけのないしょでつけた名前はローリー。かい主がみつかるまでの、ローリーとぼくと家ぞくの7日間の心あたたまるお話です。



春になったらあけてください

ますい くにえ / 文 あべ まれこ / 絵
BL出版

お母さんが懸賞であてた賞品は、大きな缶と「春になったらあけてください」とかかれた紙。いったい何が入っているのでしょうか？ 春って、いつくるんでしょう？ 缶のなかみへのきたいや、春を待つワクワクした気持ちがつたわる、ほのぼのとしたお話です。



ピーナッツなんきんまめらっかせい
(かがくのとも傑作集 ときどきしぜん)

こうや すすむ / 文 なかじま めつこ / 絵
福音館書店

ピーナッツ、なんきんまめ、らっかせいは、実はみんな同じ豆だって知ってましたか？ では、らっかせいは、地面の下で実をつけるって知ってましたか？ らっかせいのユニークな生態にせまります。へえ〜って感心することまちがいありません。

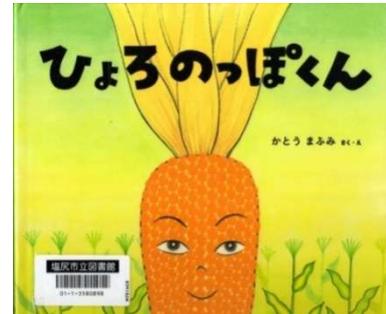


ひよろのっぼくん

かとう まふみ／文・絵

農山漁村文化協会

まなつのたいようのもと、とうもろこしがそだちます。せの高さがじまんのひよろのっぼくん。だけど、いつまでたってもやせていて…。表紙は、にんじんかな？と思うけど、とうもろこしのおはなしです。たしかめてみてね。

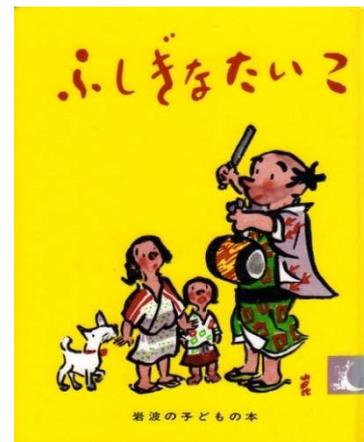


ふしぎなたいこ

石井 桃子／文 清水 崑／絵

岩波書店

げんごろうさんは、人間の鼻を高くしたり低くしたりする、ふしぎなたいこをもっていた。ある日、どのくらいのびるかためしてみたくなって、野原にねころび、天にむけて、どんどんどこたいこをたたいた。すると鼻は、山より雲より高くのびていく。



ふしぎなナイフ

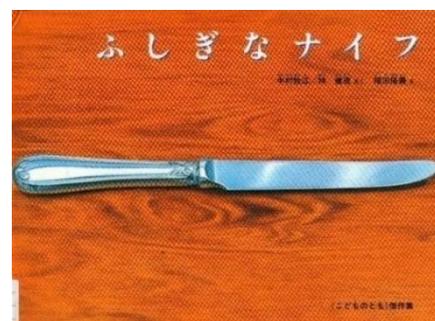
(こどものとも傑作集)

中村 牧江・林 健造／文

福田 隆義／絵

福音館書店

テーブルにおかれたナイフ。ページをめくれば、いろいろとかたちが変わっていきます。まるで本物のナイフのような絵なのに、まがって、ねじれて、ほどけて、とけて…。なんてふしぎなナイフでしょう！

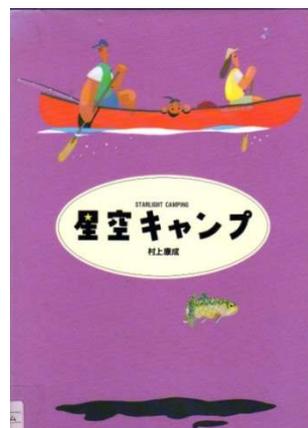


星空キャンプ

村上 康成 / 文・絵

講談社

みんなはキャンプに行ったことがありますか？
自然の中でテントをはって生活するのって
楽しいですよ。テレビもゲームもなかったら、
つまらないかなあ？ 自然にふれあってすご
すのってどんな感じなのかなあ？ キャンプ
に行ったことのある人もない人もぜひどう
ぞ。



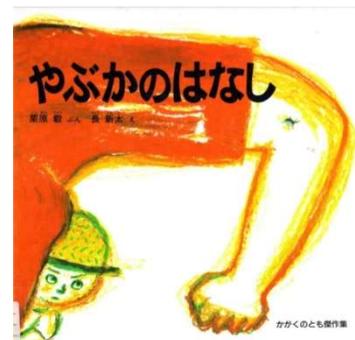
やぶかのはなし

(かがくのとも傑作集 ときどきしぜん)

葉原 毅 / 文 長 新太 / 絵

福音館書店

夏になるとあらわれて、かゆさをはこんでく
るイヤな虫「か」。血をすうのはメスだけ
だって知ってた？ だったらオスはなにを食
べるのかな？ つぶしてもつぶしても、どこか
らともなくとんでくる「か」。どこにすんでるのか
な？ この本で、ちょっと「か」の世界をのぞ
いてみませんか。



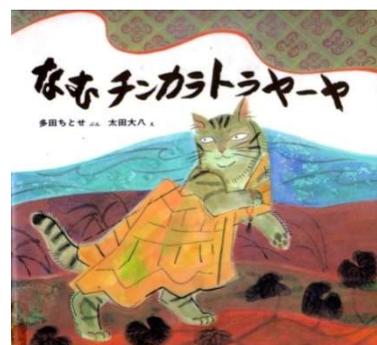
きょうど 郷土の絵本

なむチンカラトラヤーヤ

多田 ちとせ / 文 太田 大八 / 絵

ほるぷ出版

びんぼう寺のおしょうさんが、ねこにおしえ
られたとおりに「ナムチンカラトラヤーヤ」と
お経をとえると、ふしぎなことにしょうや
様のひつぎが空からおりてきます。おかげ
で、寺はりっぱになります。長野県に伝わる
猫檀家というむかしばなしが絵本になりました。
た。

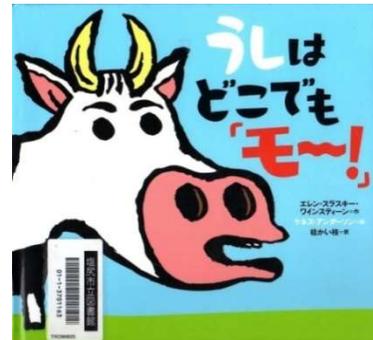


外国の絵本

うしはどこでも「モ〜！」

エレン・スラスキー・ワインスティーン／文
ケネス・アンダーソン／絵 桂 かい枝／訳
鈴木出版

犬のなきごえは？「ワンワン」だよ。でも、イギリスでは「バウワウ」ってなくらしい。スペインでは「グアウグアウ」。フランスでは「ワウワウ」。国によって動物のなきごえの表現はさまざま。でもね、ウシは…？ 蘭西弁のリズムがたのしい絵本です。

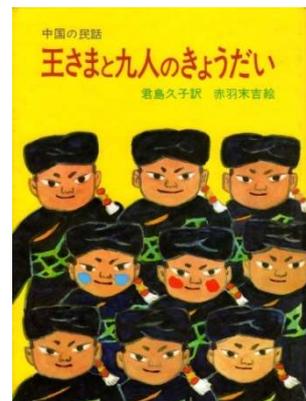


王さまと九人のきょうだい

中国の民話

赤羽 末吉／絵 君島 久子／訳
岩波書店

こどもがいないおじいさんとおばあさんに、いっぺんにそっくりな九人のこどもが生まれます。あるとき、王さまのきゆうでんがたおれ、きょうだいの一人、力もちがなおします。ところが王さまは、つぎつぎとむりなことを言います。さて、九人は？



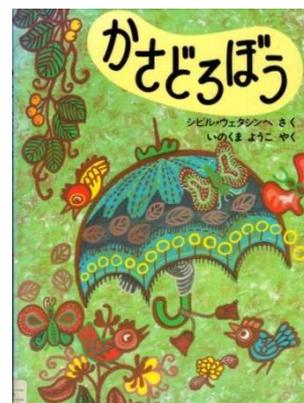
かさどろぼう

シビル・ウェッタシンハ／文・絵

いのくま ようこ／訳

徳間書店

かさを見たことのないおじさんが、町で初めてかさを見ておどろきます。村に買って帰りますが、なんと買って帰っても、かさがぬすまれてしまいます。いったいだれが？ かさとおじさんはどうなってしまうのでしょうか。ユーモラスでどこかのんびりしたスリランカのお話です。



ぜったいねないからね (チャーリーとローラのおはなし)

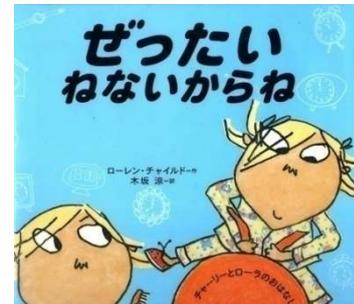
ローレン・チャイルド／文・絵

木坂 涼／訳

フレーベル館

チャーリーの妹ローラは、手のかかる女の子。ぜったいねないと、いろいろなことをしてチャーリーをこまらせます。ローラの言い訳がとっても楽しいですよ。

シリーズ3冊



はちうえはぼくにまかせて

ジーン・ジオン／文

マーガレット・プロイ・グレアム／絵

もり ひさし／訳

ペンギン社

せっかくの夏休みなのに、どこにもつれていってもらえないトミーは、るすの家のはちうえをあずかることにします。ぐんぐんのびてジャングルみたいになったはちうえを、トミーはすてきにあげます。そんなトミーにまっていた夏休みのごほうびは？



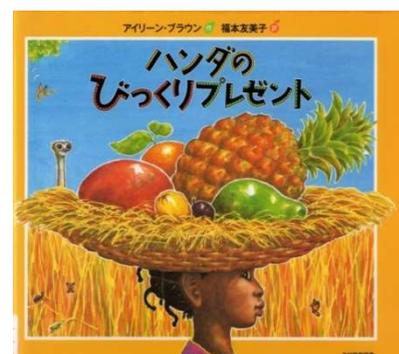
ハンダのびっくりプレゼント

アイリーン・ブラウン／文・絵

福本 友美子／訳

光村教育出版

親友のアケヨにハンダがくだものをとどけます。アケヨは喜んでくれるでしょうか？ 最後は驚きの展開が…。絵がとっても鮮やかで、色とりどりのトロピカルフルーツがとってもおいしそう。遠い国、ケニアの生活の様子までうかがえそうな楽しい絵本です。



日本の読み物

おさるのまいにち

いとう ひろし／作

講談社

南の島にすむおさるのお話。おひさまがのぼると目をさまし、おしっこをしてごはんを食べます。かえるなげをしたり、のみとりをして、よるになったらねむります。うみがめのおじいさんの世界中のお話を、みんな楽しみにしてまちます。毎日があたたかく感じる本です。

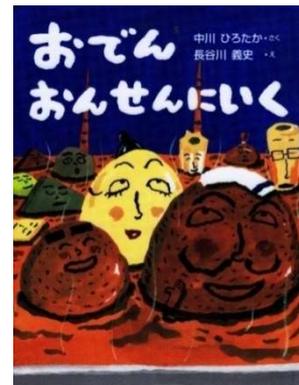


おでんおんせんに行く

中川 ひろたか／作

佼成出版社

おんせんランドへ行った さつまあげ、たまご、ばくだんのおでん親子。おんせんランドはおもしろいお風呂がたくさん。おしるこのゆにクリームシチューのゆにラーメンのゆ…。「どれに入ろうかなあ。」おなじみのおでんダネがそろうって、にぎやかなおしゃべりがはじまります。

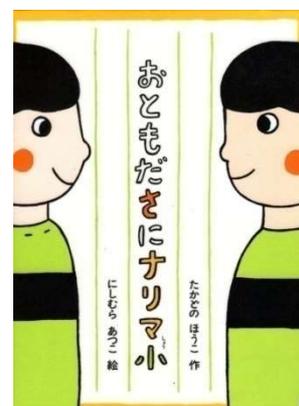


おともだちにナリマ小^{しょう}

たかどの ほうこ／作

フレーベル館

1年生になったばかりのハルオくんが、あるあさ学校にいくと、みんなのようすがなんだかへんです。ようふくをさかさまにきていたり、くつしたがばらばらだったり。黒板の字もはんたいむきです。なんとそこは、キツネの小学校でした。キツネとハルオくんはおともだちになれるかな？

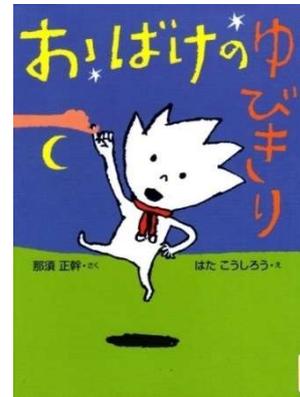


おばけのゆびきり

那須 正幹／作

佼成出版社

おばけをみたことがある？ おばけは森の中で「おともだちになろうよ。」とリスに、クマに声をかけますが、おばけだと気がつくところからされてしまいます。ある日、人間のおばあさんの家に、あそびにいきました。おばけともだちになるほうほうが書かれています。



カボちゃんのうんどうかい

高山 栄子／作

理論社

きょうは運動会です。なかよしのカボちゃん
とソラオくんも、赤と白にわかれて、たたか
います。でも、ピンチになったらやっぱりみん
なでたすけあいます。カボちゃんと1年1組
のなかまたちの、たのしいお話です。

シリーズ10冊



こぎつねコンチ

中川 李枝子／作

のら書房

こぎつねのコンチは、お父さんとお母さんと
きつね原っぱの近くにすんでいます。ある春
の日、お母さんが作るエプロンについている
大きなポケットと同じ大きさのポケットを作っ
てもらって、コンチは原っぱへでかけます。

季節を感じられる、やさしいお話です。



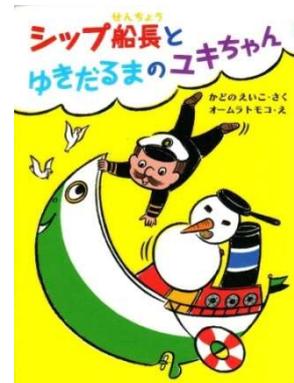
シッ^{せんちよう}船長とゆきだるまのユキちゃん

かどの えいこ／作

偕成社

シッ^{せんちよう}船長は、たのまれるとなんでもひきうけてしまう、ちよっとおちよこちよいの船長^{せんちよう}さんです。ゆきだるまのユキちゃんを、南の国へはこぶことになったのですが…、だんだんと雪がとけだします。シッ^{せんちよう}船長は、ぶじに南の国までいけるでしょうか？

シリーズ5冊

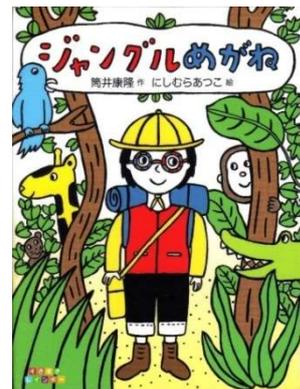


ジャングルめがね

筒井 康隆／作

小学館

しんすけくんがもっているめがねは、まわりの人がどうぶつに見える「ジャングルめがね」。ある日、しんすけくんは、お友だちのなっちゃんをピンチにであいます。なっちゃんをたすけるため、ジャングルめがねをかけたしんすけくんが大かつやくします。

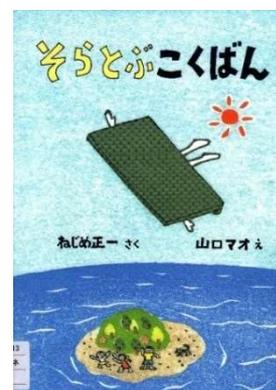


そらとぶこくばん

ねじめ 正一／作

福音館書店

王さまのしょくたくになりたかった2年1組の黒板は、ある夜、学校のおくじょうから「えいやー」と空とぶ黒板になってとび立ちました。だけど、王さまのしょくたくにもなれません。こくばんはどうなってしまうの？



つりばしゆらゆら

もりやま みやこ／作

あかね書房

きつねの男の子は、いのししのおじさんからつり橋のむこうにきつねの女の子がいて聞いて、つり橋をわたる練習を始めた。「1・2・3」三つ歩いただけで足がすくんだ。その次の朝は五つ。その次の朝は六つ。さあ、きつねの子は、女の子にあえるかな？



どれみふあけろけろ

ひら くんべい／作

あかね書房

「かえるになりたいなあ。」とつぶやいたたっくんは、「あおがえるたけし」という名前ので、かえるのがっこうでべんきょうすることになりました。およぎもおんがくもにがてな たっくんだけど、かえるのがっこうのお友だちと、いっしょうけんめいべんきょうします。

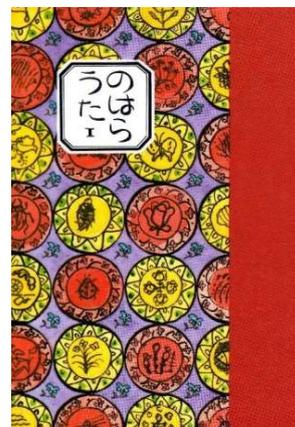


のはらうた 1

くどうなおことのはらみんな／作

童話屋

のはらみんなの代理人くどうなおこさんが、のはらのなかまのつぶやきを、「詩」にしてわたしたちにとどけてくれます。かまきりりゅうじも、うさぎふたごも、みみずみつおも、みんなたのしそうです。みなさんものはらの代理人になって、詩をつくってみませんか。シリーズ5冊



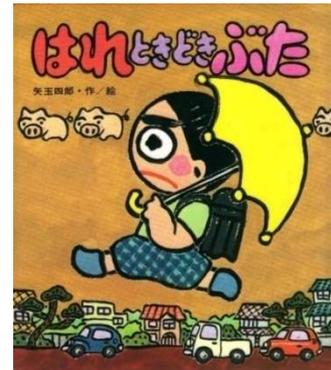
はれときどきぶた

矢玉 四郎／作

岩崎書店

毎日日記をつけている則安くん。ある日、お母さんがかってに日記を見てしまったので、お母さんをおどろかそうと、へんなことを書いて“あしたの日記”をつけることに。ところが、書いたことがつぎつぎとほんとうになってしま

って…。
シリーズ9冊



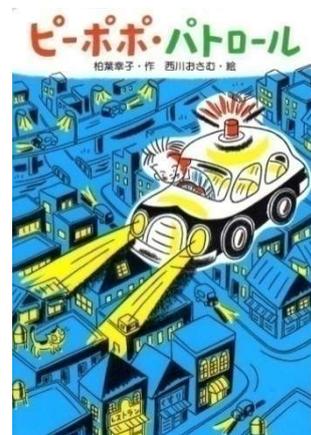
ピーポポ・パトロール

柏葉 幸子／作

童心社

フリーマーケットで見つけた、おもちゃのパトカー。キズが目立つが、赤いランプがちかちか光りました。ひとは「ピーポポ」と名まえをつけ、お父さんに買ってもらいます。その日の夜、ピーポポという大きな音がして、ふしぎなことがおこります。

シリーズ3冊



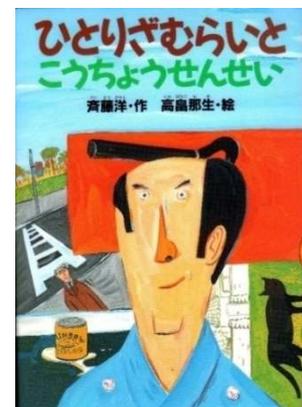
ひとりざむらいとこうちょうせんせい

斉藤 洋／作

講談社

小学校の正門の場所を、校長先生がかってにかえてしまいました。元の正門の前のおうだんほどうは、せいとがとらなくなって、すっかり元気がなくなってしまいます。「なんとかしよう」とひとりざむいが「名刀ふしぎまる」で、だいかつやく！

シリーズ2冊

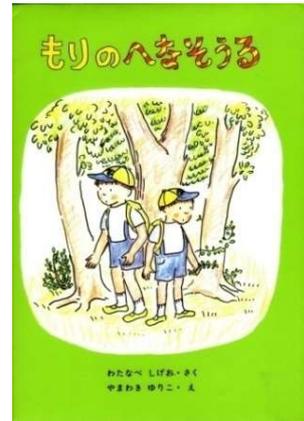


もりのへなそうる

わたなべ しげお／作

福音館書店

てつたくんとみつやくんの兄弟は、森へたんけんに行って、大きなたまごを見つけます。次の日、「きょうりゆうたいじ」に出かけ「へなそうる」と出会います。二人は「へなそうる」とかくれんぼやかにとりをして、日がくれるまで楽しくあそびます。ゆかいで楽しいお話です。



ランドセルのはるやすみ

むらかみ しいこ／作

PHP出版

朝からわが家は大きすぎ。「つれてって、つれてって。えんそくいっしょに、つれてって。」だだをこねているのは、おとうちゃん。すると、ぼくのランドセルまで「つれてって」といい出したから、さあたいへん！ ぼくのえんそく、どうなっちゃうの？

シリーズ4冊



きょうど 郷土の読み物

わらうことが しゅくだいだって

はま みつお／作

金の星社

たった1人でとうげをこえて、学校までかよわなければならない、1年生のゆきちゃん。だから入学式も、あまりうれしくはありません。1年生のみんなも、なんだか不安そう。そんなみんなを教室でむかえてくれたのは、先生のりょうてにはめられた人形たちと、すてきなしゅくだいでした。

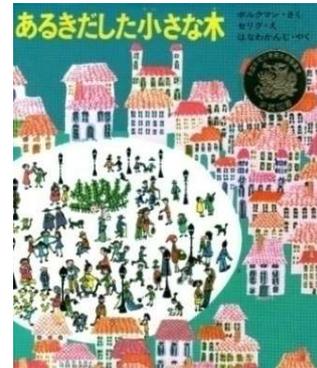


外国の読み物

あるきだした小さな木

テルマ・ボルクマン／作 花輪 莞爾／訳
偕成社

ふかい森の小さな原っぱのパパの木、ママの木のすぐそばに、ちびっこの木が一本はえていました。ちびっこの木は友だちもたくさんいてしあわせでした。ある日、森で人間を見てから、人間とくらしたいと考えるようになり、ちびっこの木は歩き出し、遠いたびをはじめます。



エルマーのぼうけん

ルース・スタイルス・ガネット／作
わたなべ しげお／訳
福音館書店

エルマーは、年とったねこから動物島につかまっているりゅうの子のはなしを聞いて、たすけにむかいます。おそろしい動物にであって、きけんな目にあいますが、知恵をはたらかせ、ついにたすけ出します。そして、エルマーはりゅうの子のせなかにかのつて、みんなのところへかえってきます。

シリーズ3巻



しらべものの本

みかんのひみつ

鈴木 伸一／監修
ひさかたチャイルド

だいたい色に丸いぷつぷつ、なーんだ？それは「みかん」。みかんの皮を大きくしたり、ばらばらにしたりしてかんさつしてみよう。大きさも形もちがうけど、みかんにはなかまがいっぱい。みかんの実のなり方や、せいちようの様子がわかる写真絵本です。

